



園だより

令和 8 年 9 月 4 日
学校法人 南陽学園
宮内認定こども園

2026 年度 年主題 「しゅイエスとともに」

「 こどもの可能性に魅せられて～成長を見守る喜びと感謝 」

園 長 宇津木 純子

今年の 8 月も厳しい暑さが続き、9 月に入っても残暑が続いています。それでも今年は 3 月にホールと幼児棟廊下にエアコンを増設したことで室内は大変過ごしやすく、子どもたちも私たち職員も健康が守られて過ごすことが出来ました。感謝です。

また、厳しい暑さの中での戸外での水遊びは、とても慎重に行いました。子どもたちが大好きなプール遊びや、水遊びをさせてあげたい反面、連日の暑さで熱中症を警戒しながらの実施となりましたが、子どもたちの楽しそうな笑い声や歓声を聴くと、「遊べてよかった」とホッといたしました。回を重ねるたびに水に慣れていく様子を見ることができたのも、大きな喜びです。来年も水遊びを楽しめる夏であってほしいと願いながら、無事にプール片付けを終えました。

そして、心も体もひとまわり大きくなった子どもたちと、新たな遊びや活動に心を向けて、9 月がスタートしました。9 月 2・3 日は「ハッピーフェスティバル」を楽しみました。今月は大好きなおじいさま・ばあさまをお招きして、一緒に過ごす「祖父母の会」、そして、10 月は、3.4.5 歳児の「わくわくの日」や「友愛セール」といった楽しい行事が予定されています。一つひとつの行事が、豊かで楽しい経験となるように、子どもたちと相談し、語り合いながら準備を進めていきたいと思ひます。

「子どもの育ちは、安心と挑戦の繰り返し」と言われていますが、小さな子どもたちを見ていると、まさにその通りだと感じます。

5 月頃、てんし組の子どもたちが担任にしっかり抱っこや膝の上に安心して座っているのところへ行き、あまりのカワイさに声をかけたところ、大泣きされて担任に必死で抱きつかれました。しかし、しばらく過ぎてから、再び声をかけてみると、今度はあまり泣かれることもなく、部屋の中で担任の姿を振り返って確認しながら、ハイハイで動き始めていたのです。そして日を追うごとに、行動範囲が広がり、自分から興味のある遊具を見つけてそこへ向かう姿が見られました。人が生まれながらに持っている「素晴らしい生きる力の原動力」を見た心地がしました。

子どもは、「安心」という安全基地があるからこそ、外の世界という未知の領域に「挑戦」できるのだと実感します。この「安心と挑戦」を支える 4 つの重要な要素を、今回改めて学び再確認致しましたのでお伝えしたいと思います。

- ・安全基地の確認 「困ったら親(大人)のところに戻れば大丈夫」という無条件の受容や愛着関係があることで、心に「心理的安全性 (心のバルア)」が生まれます。
- ・小さな失敗と冒険 安心して挑戦できる環境では、子どもは少し高めのハードルに挑みます。途中で転んでも、戻る場所があるから立ち上がります。
- ・自己効力感の獲得 「自分で出来た！」という成功体験や、「ダメでも受け止めてもらえた」という経験が、自己肯定感と「次もやってみよう」という意欲に変わります。
- ・再充電と見守り 疲れたり傷ついたりした時は一時安全基地に戻り、十分に甘えたりしてエネルギーを補給し、再び次の挑戦へと向かっていきます。

これから、いろいろなことにチャレンジしていく季節です。私たち大人の役割は、無理に背中を押し続けることではなく、「いつでも戻ってきていいよ」という温かい港(安心)で居続けることと、子どもが自ら一歩を踏み出す瞬間(挑戦の芽)を信じて見守ることなのかもしれません。子どもたちを信じて待ちましょう。そして、子どもたちにエネルギーを補給してあげられるように、私たち大人も、同じように心に燃料を蓄えていきましょう。

9 月聖句

ルカによる福音書 15：6 「見失った羊を見つけたので、一緒によろこんでください。」

関岡 登季弥先生

聖書の中に、こんなお話があります。ある羊飼いが 100 匹の羊を飼っていました。ある日、そのうちの 1 匹が迷子になってしまいます。そこで、羊飼いは残りの 99 匹を置いて、迷子になった 1 匹をどこまでも探しに行き、見つけると大喜びで肩にかついで帰ってきました。大人の社会や効率を重視する世界では、「99 匹を守るために、いなくなった 1 匹を諦める」のが普通の判断なのかもしれません。しかし、この羊飼い（神さま）にとって羊たち（私たち）は「1/100」という数字ではなく、一匹一匹が名前のあるかけがえのない特別な存在なのです。この話はその事を教えてくれています。

私たちのこども園が目指す「一人ひとりを大切にする保育」の原点は、まさにこの羊飼いのまなざしにあります。集団生活の中では、時にうまく気持ちを表現できなかつたり、みんなと同じように行動できずに「心の迷子」になってしまうお子さんもいます。そんなとき、私たちは「みんなに合わせなさい」と急かすのではなく、「どうしたの？」とその子の思いのそばまで寄り添いに行ける存在でありたいと願っています。

この様に、こどもたちは誰しも、神さまに愛されている、かけがえのない存在なのです。そうやって、自分の存在そのものが丸ごと受け止められ、愛されているという実感があって、初めてこどもたちは安心して自分らしさを発揮し、お友だちにも優しくできるようになっていけます。ですから、ご家庭でも園でも、こどもたちが「自分は大切にされているんだ」と心から実感できるように、ご家族の皆さんとも連携を取りながら、これからもこどもたち一人ひとりの歩みに確り寄り添っていききたいと思ひます。

早朝作業の御協力ありがとうございました

先日は早朝にもかかわらず、多くの保護者の皆様に草刈りや花壇・園庭の草むしり、プールシート清掃等のご協力いただき、心より感謝申し上げます。

皆様の温かいご協力のおかげで、園舎周りの草も綺麗に刈り取られ、園庭や花壇もすっきりと整いました。また、子どもたちが夏の間たくさん楽しんだプールも無事シーズンを終え、シートもピカピカに洗っていただきました。綺麗になった明るい環境で、子どもたちも気持ちよく安全な環境の中、子どもたちも元気に伸び伸びと過ごしています。

早朝からの作業、本当にお疲れ様でした。皆様の温かいご支援に、職員一同深く感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。